

元気UP アツプ通信



下関市長の部屋

検索

<http://www.city.shimonoseki.lg.jp/>



『住まいる☆下関』移住総合窓口
場所：シーモール下関1階
受付時間：午前10時～午後6時30分
電話：242-0500
休業日：毎週火曜日、年末年始(12/29～1/3)

移住に関する総合的なサポート 『住まいる☆下関』オープン

こ んにちは。市長の中尾友昭です。昨年12月、シーモール下関1階に、移住に関する総合的なサポートを行う『住まいる☆下関』移住総合窓口を開設しました。

人口減少は全国的な課題であり、その対策の一つとして、国や多くの自治体で定住の促進や移住者の受け入れを積極的に行っています。本市でも、人口減少に歯止めを掛け、将来に向けての人材を呼び込むため、移住者の受け入れ体制の充実が必要です。

このため、移住に関するさまざまな悩みに的確・丁寧に対応し、移住に向けた活動を円滑に行えるように、窓口を開設しました。名称は、『住まいる☆下関』移住総合窓口です。これは、移住・定住の「住」と英語の「スマイル」を合わせたもので、市民の方や本市へ移住する方にも、下関で笑顔のある毎日を送っていただきたいとの願いを込めました。

移住に関する相談は人それぞれです。窓口では、専任の相談員が移住を検討している方々の個別の相談に、幅広く、一つ一つ丁寧に対応します。移住に関する市の支

援制度の紹介のほか、移住後の就職や住まいの相談も窓口で行うことができ、移住に重要な雇用や不動産情報も充実しています。

窓口があるシーモールド下関は、移住を検討している市外の方にも分かりやすい場所であり、立ち寄りやすく相談しやすい環境となっています。土日祝日も開設し、移住希望者本人だけでなく家族や知り合いの方の相談にも対応します。市民の皆さんもぜひ立ち寄っていただければと思います。

本 市では、移住促進のために、さまざまな助成制度や取り組みを行っています。

住宅購入の助成金制度や定住奨励金(一部地域のみ対象)の支給をはじめ、大都市圏在住の方に向けて、東京などでの個別相談会や本市の住みやすさを紹介した動画の制作や情報発信を行っています。本市は都市としての利便性を備えつつ、海や山、歴史など多彩な魅力にも恵まれています。市民の皆さんと共に本市の魅力を発信し、多くの方々に下関市に住み続けたいと思ってもらえるよう、今後もしっかり取り組みを進めてまいります。ご協力をお願いいたします。

しものせきナビ vol.74

行って! 学んで! 博物館!

坂本龍馬所用
飯碗・湯呑
下関市立歴史博物館蔵



坂本龍馬写真
個人蔵
下関市立歴史博物館寄託



ラスを使って接着する焼継という技法によるものです。焼継は、江戸時代に行われていた修復法ですので、龍馬が使用している際に割れたのかもしれません。

この飯碗と湯呑は、龍馬から長府藩士の印藤隼に贈られ、後に長府毛利家14代当主である毛利元敏によって「放駒」と命名されました。印藤は長府藩士の中で最も早く龍馬と交流を持ったといわれる人物です。

両者は、深い信頼関係にあっただよつで、龍馬は自らが志す蝦夷地などの開拓事業について語り、協力を求める手紙を印藤に送っています。

坂本龍馬が使用していた飯碗と湯呑です。ふたに「亀山製」と記された飯碗は亀山焼、湯呑は伊万里焼と推定されます。長崎県長崎市の風頭山で生産された亀山焼は、染付けの美しさから広く愛用されました。この飯碗には龍馬にふさわしく、龍が染め付けられています。なお、割れた跡を修復した痕跡があります。これは熱した方が

明治時代に入ると印藤は豊永長吉と名を改め、実業家として活躍することとなりますが、そこには少なからず龍馬の影響があったことでしょう。